

第61期 第2四半期のご報告

FUNAI 通信

2012年4月1日～2012年9月30日



新規市場への販売拡大を加速させるとともに、成長戦略を着実に実践することで収益回復を目指します。

株主の皆様には、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。第61期第2四半期(4-9月)の連結決算が確定しましたので、営業の概況とともに当社グループの今後の戦略などについてご説明します。



代表取締役 執行役員社長 林 朝則

当第2四半期(2012年4-9月)の業績

日本でのブルーレイディスクレコーダと液晶テレビの市場低迷が大きく影響し減収減益

当第2四半期の民生用電気機器業界では、主要製品である液晶テレビの需要が北米で比較的堅調に推移し、東欧や新興国でも拡大傾向となりました。しかしながら、市場の冷え込みが顕著な日本、景気後退がみられる西欧では需要低迷が続きました。

このような状況下、液晶テレビの売上は、北米においては価格訴求力のある製品を中心に大手量販店向けが好調に推移しましたが、日本では市場の冷え込みの影響から減少しました。また、市場低迷の長期化により、日本向けブルーレイディスクレコーダが大きく落ち込んだほか、プリンターの受注減により情報機器が大幅な減収となったことなどから、当第2四半

期の連結業績は、売上、利益ともに前第2四半期を下回る結果となりました。

なお、主な業績要因は下記の通りです。

👉 主な業績要因

📈 …プラス要因 📉 …マイナス要因

市場環境による影響

【液晶テレビ】

- 📉 日本での地上波デジタル放送移行後の市場の冷え込み
- 📈 北米・中南米市場での需要増

【DVD関連製品】

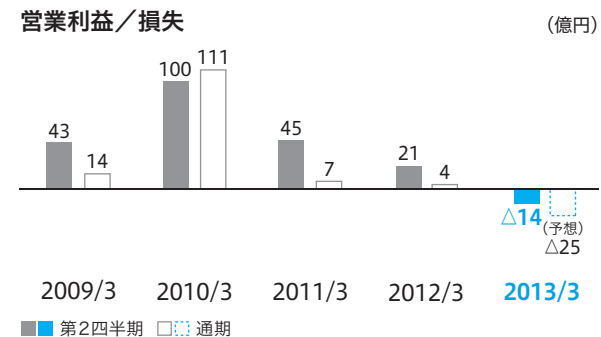
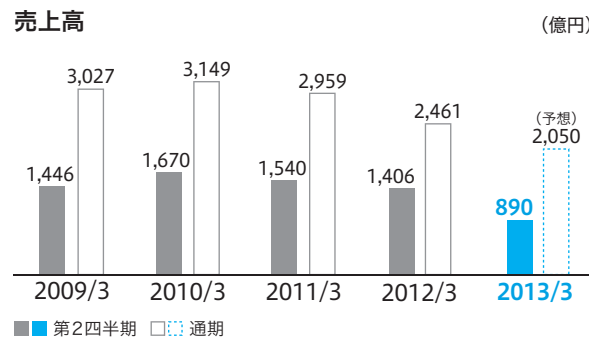
- 📉 日本向けブルーレイディスクレコーダ市場の低迷

【プリンター】

- 📉 競争激化による受注減

【アンテナ他】

- 📉 日本での地上波デジタル放送移行後の反動減



成長戦略・施策

「3つの戦略」に基づく施策を継続

当社グループは成長戦略の柱として、「既存事業の拡大・強化」「新規市場への展開」「新規事業分野への展開」の3つの戦略を掲げ、さまざまな施策を進めています。

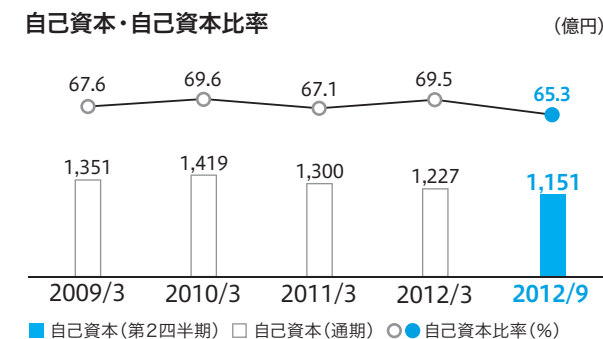
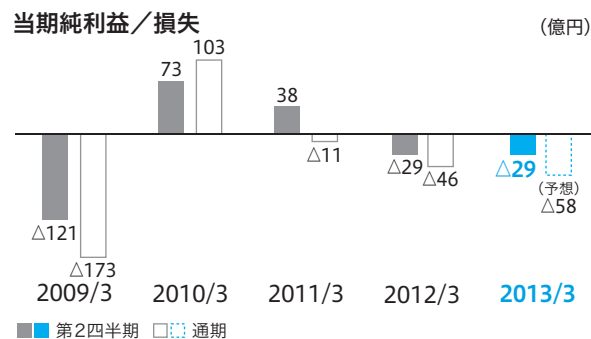
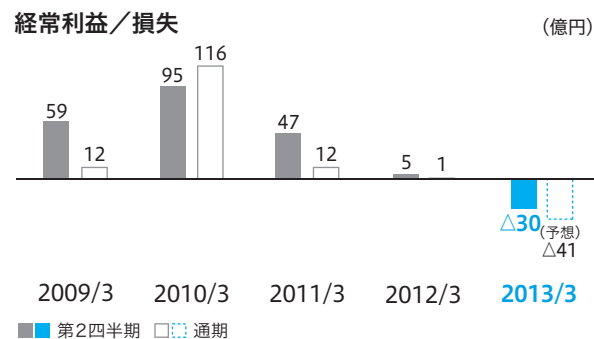
戦略的な資源配分によって有望な事業を育てるとともに、多様な収益源を確保することで、市場動向に左右されず柔軟な戦略をとり、成長につなげられるような体制を構築していきたいと考えています。

なお、当第2四半期の主な成果と今後の計画は右記の通りです。

👉 当第2四半期の主な成果と今後の計画

	当第2四半期の主な成果	今後の計画
既存事業の拡大・強化	<ul style="list-style-type: none"> ● フィリップス社製オーディオアクセサリー製品の北米での独占販売契約を締結 ● レーザービームプリンターの生産を開始 	<ul style="list-style-type: none"> ● タイ工場を拡張(2013年竣工予定) ● リスクヘッジに向けて、中国、タイに続く新たな生産拠点を検討 ● OEM※1ビジネスを増強 ● プリンターの自社開発を推進
新規市場への展開	<ul style="list-style-type: none"> ● メキシコ販売会社を拠点に、中南米で映像機器を拡販 	<ul style="list-style-type: none"> ● ASEAN諸国において液晶テレビの市場を開拓 ● インド向け液晶テレビの販売を開始
新規事業分野への展開 []内は該当分野	<ul style="list-style-type: none"> ● [環境・エネルギー] 中国でLED照明の生産・販売を本格化 	<ul style="list-style-type: none"> ● [環境・エネルギー] 日本向けにLED照明の生産・販売を開始 ● [環境・エネルギー] エコ成形材料の生産・販売を開始 ● [ネットワーク] Android OSタブレットや同インターネット端末の生産・販売を開始 ● [デバイス・モジュール] 自社のMEMS※2技術を応用した製品を開発

※1 OEM: Original Equipment Manufacture 相手先ブランド名で製造を請け負う業務
 ※2 MEMS: Micro-Electro-Mechanical Systems 微小電気機械素子およびその創製技術



下半期(2012年10月-2013年3月)の見通し

厳しい市場状況が続くと考えられることから、業績予想を修正

当下半期は、北米で液晶テレビが堅調に推移すると見ており、9月から販売を開始したフィリップス社製のオーディオアクセサリ製品の販売拡大も順調に進むと予想されます。しかし、DVD関連製品では引き続き日本においてブルーレイディスクレコーダの需要が減退し、期初の売上想定を下回る見込みです。利益面でも円高などの影響が残ると考えられ、厳しい状況が続くものと予想しています。

なお、これらの想定を踏まえて、2012年11月2日に通期連結業績予想の修正を発表しました。売上高は2,050億円、営業損失は25億円、経常損失は41億円、当期純損失は58億円と見込んでいます。

需要の見込めるアジア・中南米などを中心に製品拡販と新規市場開拓に注力

こうした中で当社は、液晶テレビなど映像機器の販売において、需要が見込めるアジア・中南米市場などでの販売展開を加速していく予定です。特に、当下半期から液晶テレビの販売を開始するインド、生産設備の増設を行っているタイなどで販売を強化し、メキシコなど中南米向けの販売も拡大していきます。これに並行して、他のASEAN市場への販売展開も検討していきます。

その一方で、北米など成熟した既存市場でのシェア拡大も図り、有力量販店との関係を引き続き強化していきます。また、これらに加えて、新製品の投入、新規事業分野の開拓による収益向上も図っていきます。

新規事業分野においては、既に中国、日本で販売を

開始しているLED照明の拡販を図るとともに、その他の海外市場への展開なども視野に入れた事業展開を進めていきます。また、Android OSタブレットや同インターネット端末の販売も新たに開始する予定で、MEMS技術を応用した製品の開発も引き続き行っていきます。

こうした施策にグループをあげて全力で取り組み、収益の回復を図っていきます。

株主の皆様には、当社グループの事業にご理解を賜り、今後とも変わらぬご支援をいただきますよう、よろしくお願い申し上げます。

TOPICS ① 米国ウォルマート社から優秀サプライヤーとして表彰

当社の米国子会社であるフナイ・コーポレーションが、米国ウォルマート社の「2012年サプライヤー・コラボレーション賞」および「2012年第1四半期 サプライヤー・アワード・オブ・エクセレンス」を受賞しました。これらの賞は、企画・設計から生産・在庫管理・販売サポートにまで協力し、品質・価格・納期に関する厳しい基準をクリアした魅力ある製品を供給することによって、同社の業績向上に特に貢献したと認められたサプライヤーに、それぞれ1年ごと・四半期ごとに授与されるものです。



サプライヤー・
コラボレーション賞の賞状

TOPICS ② フィリップス社製オーディオアクセサリの独占販売契約を締結

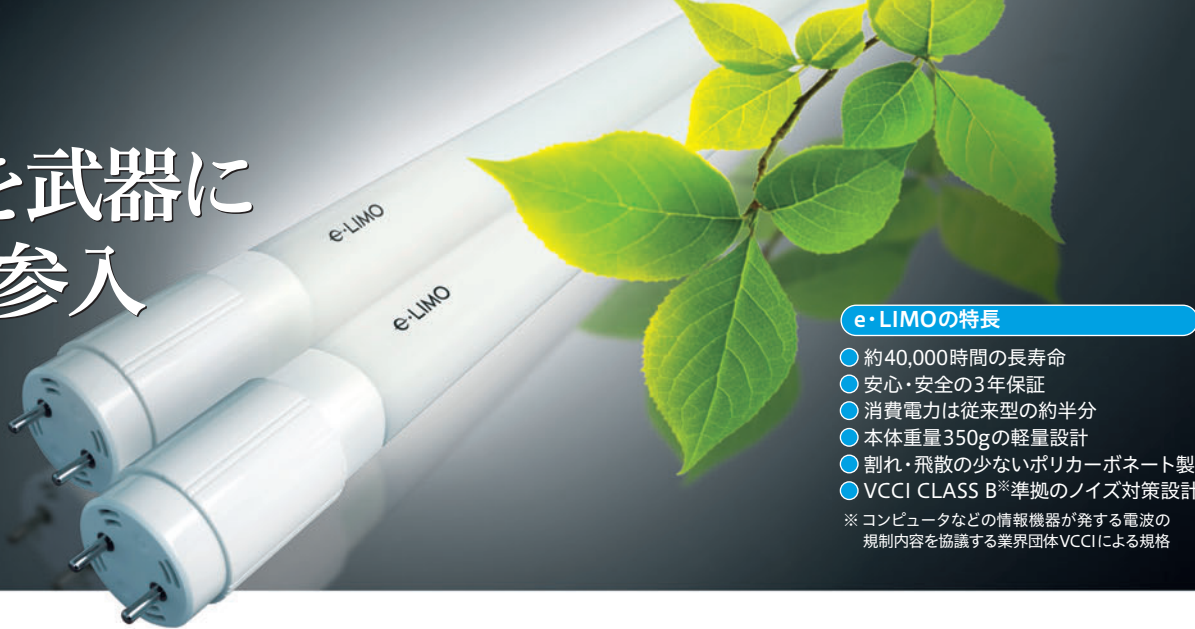
当社は、2012年7月に、フィリップス社のオーディオアクセサリ製品を米国・カナダで独占的に販売する契約を締結しました。当社はこれまでも、フィリップスブランドの映像機器の製造、販売を行っており、オーディオアクセサリ製品の販売においても、その販路を活かして速やかなシェア拡大に取り組んでいます。今後は状況に応じて販路の拡大を進め、北米でのさらなるシェア獲得を目指していきます。



フィリップス社製スマートフォン用
スピーカー

品質とコスト競争力を武器に 国内LED照明市場へ参入

当社は2012年10月から蛍光灯型LEDブランド「e-LIMO(イーリモ)」の販売を開始しました。設計から生産、販売までを一貫して行う強みを最大限活かして、国内LED照明市場で存在感を発揮していきます。



e-LIMOの特長

- 約40,000時間の長寿命
- 安心・安全の3年保証
- 消費電力は従来型の約半分
- 本体重量350gの軽量設計
- 割れ・飛散の少ないポリカーボネート製
- VCCI CLASS B※準拠のノイズ対策設計

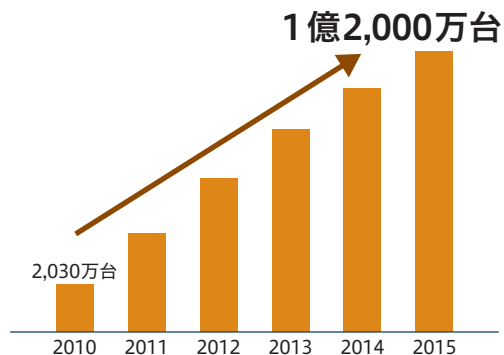
※コンピュータなどの情報機器が発する電波の規制内容を協議する業界団体VCCIによる規格

MEMO 拡大を続けるLED照明市場

省エネに対する意識が年々高まっていることもあり、LED照明の需要は世界的に増加の一途をたどっています。当社の推計では、日本国内の市場規模は、2015年までに2010年の5倍以上に拡大する見込みです。

こうした市場の有望性を踏まえて、当社は2011年に中国でLED照明市場に進出。2012年の「e-LIMO」ブランド投入により、国内市場にも参入しました。今後はさらに、他地域への参入も視野に入れて、市場開拓を進めていきます。

国内LED照明市場の規模※



※ 当社推計、2012年10月現在

FUNAIの強み 1 「国内開発設計・海外生産」でコスト競争力と高品質を両立

当社では、本製品の開発設計は国内、生産は海外で行っています。一見不思議に思えるかも知れませんが、実は非常に重要なことなのです。

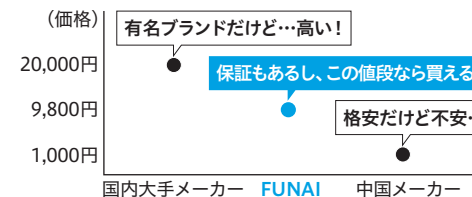
現在LED照明市場では、国内大手メーカーの製品は「高品質、しかし高価格」、一部海外メーカーなどの製品はいわゆる「安かろう悪かろう」と、二極化する傾向にあります。低価格の製品の中には火災事故や電磁波障害が報告された事例さえあり、「安く安全」な製品が切望されていました。

そこで当社は、経験豊富な国内のエンジニアが開発設計することで、安全性に細やかな配慮をした、高品質な製品を生み出しています。これを、家電製品の生産で培った当社独自の生産システム「FPS(フナイ・プロダクション・システム)」を導入した海外拠点で生産することで、コストダウンと品質保証の両面からお客様のニーズに応えています。



国内での開発風景

LED照明のコストパフォーマンス

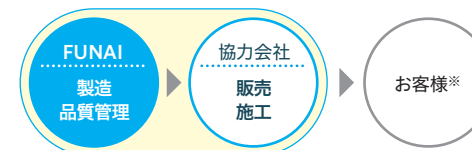


国内大手メーカー FUNAI 中国メーカー

FUNAIの強み 2 施工もセットでお客様の安全を保障

蛍光灯型LEDは、従来の蛍光灯とは機構が異なるため、導入時には必ず取り付け先の配線を変更しなければなりません。これを怠ると発煙・発火などの事故に繋がる可能性もあり、このことは一般的にはあまり知られていません。そこで当社は、LED照明を販売する際、協力会社に依頼して、施工サービスをあわせて提供し、お客様の安全をお守りしています。

施工をセットで提供

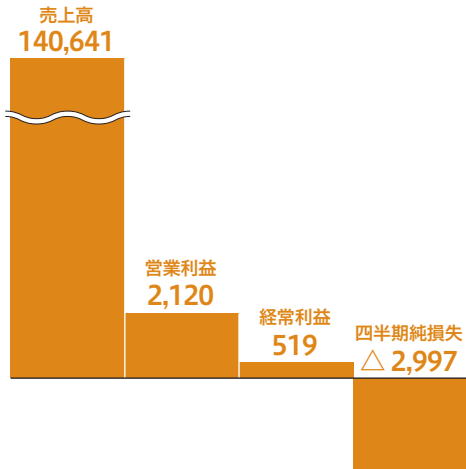


※ 当面は法人様向けに販売を行っていく予定です。

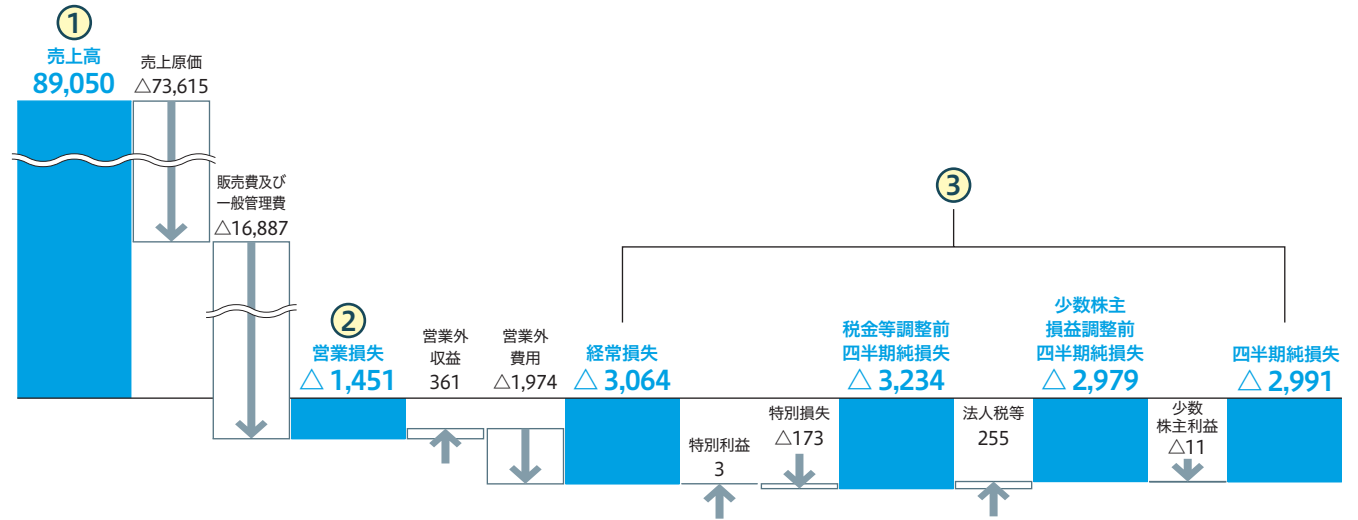
連結財務諸表の概要

連結損益計算書 (百万円)

■ 前第2四半期 (2011年4月1日～2011年9月30日)



■ 当第2四半期 (2012年4月1日～2012年9月30日)



① 売上高のポイント

日本市場の低迷の影響から、ブルーレイディスクレコーダ、液晶テレビ、受信関連用電子機器の売上が減少しました。加えて、プリンターの受注減により情報機器の売上が減少したことなどから、売上高は51,590百万円減少しました。

② 営業損失のポイント

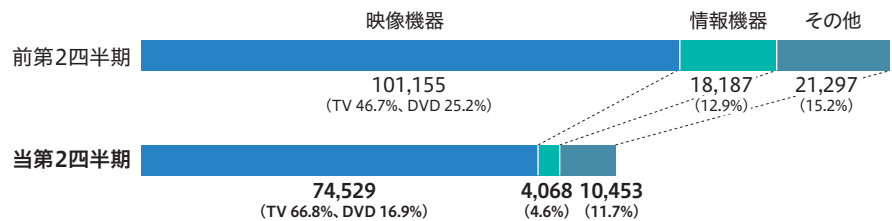
液晶テレビの赤字が解消したものの、日本向けブルーレイディスクレコーダの大幅な減収による減益などから、1,451百万円の営業損失となりました。

③ 四半期純損失のポイント

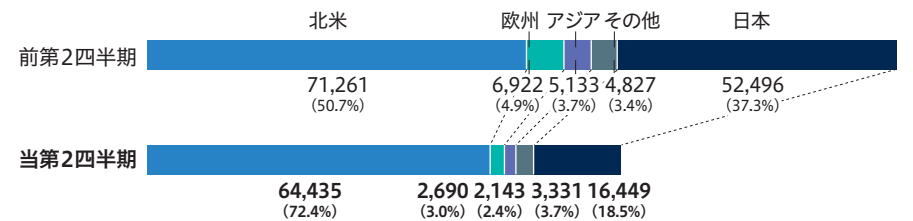
減益に伴う法人税等の減少に加え、前第2四半期におけるタックスヘイブン対策税制に係る税負担増加の影響がほとんどなくなったことなどから、2,991百万円の四半期純損失となりました。

参考 機器別・仕向地別売上状況

機器別の売上高



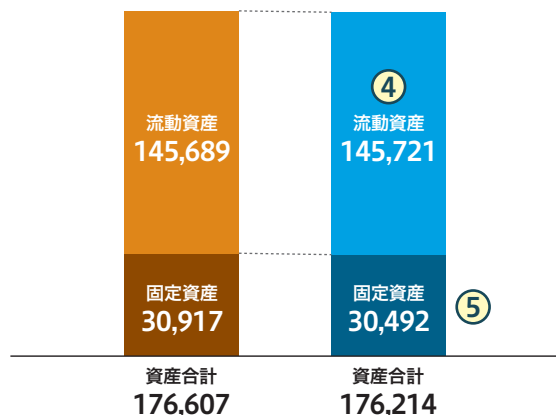
仕向地別の売上高



連結貸借対照表 (百万円)

資産の部

■ 前期末 (2012年3月31日) → ■ 当第2四半期末 (2012年9月30日)



④ 流動資産のポイント

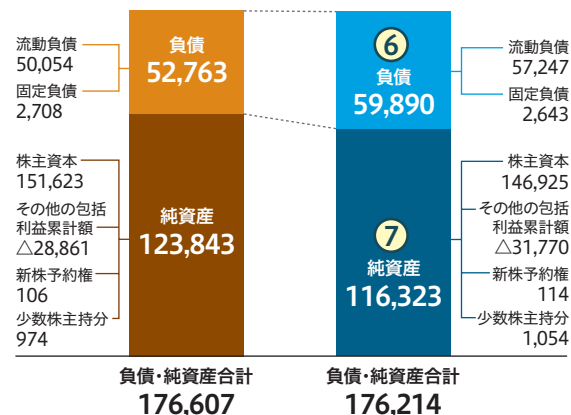
現金及び預金、有価証券が減少したものの、受取手形及び売掛金、たな卸資産が増加したことなどにより、流動資産は32百万円増加しました。

⑤ 固定資産のポイント

有形固定資産、無形固定資産が減少したことなどにより、固定資産は425百万円減少しました。

負債・純資産の部

■ 前期末 (2012年3月31日) → ■ 当第2四半期末 (2012年9月30日)



⑥ 負債のポイント

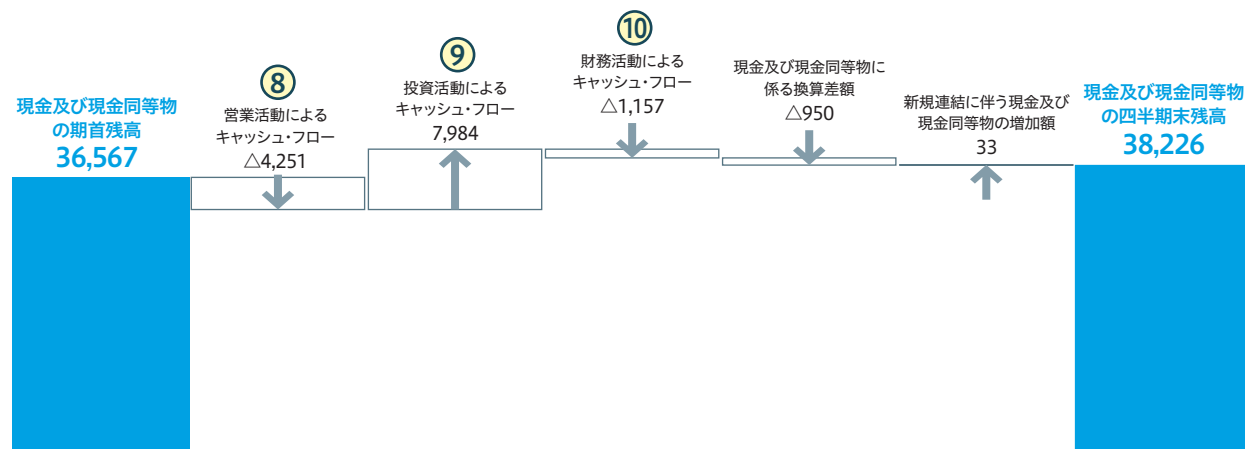
支払手形及び買掛金が増加したことなどにより、負債は7,127百万円増加しました。

⑦ 純資産のポイント

利益剰余金、為替換算調整勘定が減少したことなどにより、純資産は7,519百万円減少しました。

連結キャッシュ・フロー計算書 (百万円)

■ 当第2四半期 (2012年4月1日～2012年9月30日)



⑧ 営業活動によるキャッシュ・フローのポイント

たな卸資産の増加などにより、4,251百万円となりました。

⑨ 投資活動によるキャッシュ・フローのポイント

定期預金の預入による支出に対して、払戻による収入が大きかったことなどにより、7,984百万円となりました。

⑩ 財務活動によるキャッシュ・フローのポイント

配当金の支払いなどにより、1,157百万円となりました。

会社概要

(2012年9月30日現在)

商号 船井電機株式会社
 設立 1961(昭和36)年8月
 資本金 313億07百万円
 本社所在地 〒574-0013
 大阪府大東市中垣内7丁目7番1号
 URL <http://www.funai.jp/>

決算 3月31日
 社員数 1,055人(単体)
 業種 電気機器
 主な事業内容 映像機器… 液晶テレビ
 DVDプレーヤ
 DVDレコーダ
 ブルーレイディスクプレーヤ
 ブルーレイディスクレコーダ
 情報機器… プリンター
 その他… 受信関連用電子機器

役員

(2012年11月19日現在)

取締役 船井 哲良 …… 取締役会長
 林 朝則 …… 代表取締役 執行役員社長
 大宅 俊雄 …… 取締役 専務執行役員
 上村 義一 …… 取締役 常務執行役員
 岡田 譲二 …… 取締役 執行役員
 船越 秀明 …… 取締役 執行役員
 成起 佐治 …… 取締役 執行役員
 米本 光男 …… 社外取締役
 坂内 義明 …… 社外取締役

監査役 石崎 弘 …… 常勤監査役
 米田 信一 …… 社外監査役
 盛本 正英 …… 社外監査役

執行役員 長岡 博文 …… 常務執行役員
 中井 英夫 …… 上席執行役員
 野路井 達 …… 上席執行役員
 立見 尚夫 …… 上席執行役員
 宇賀 和男 …… 執行役員
 伊藤 武司 …… 執行役員
 河野 誠 …… 執行役員

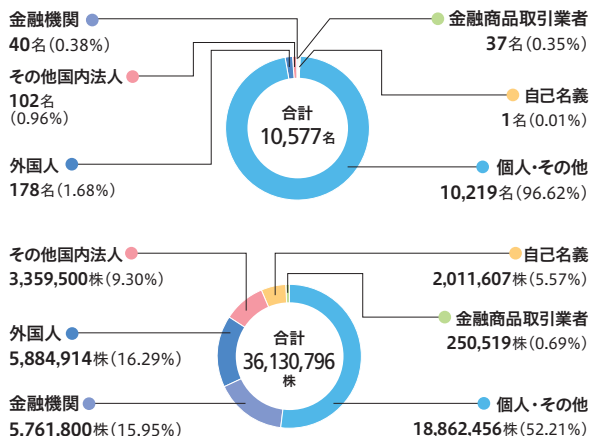
株式の状況

(2012年9月30日現在)

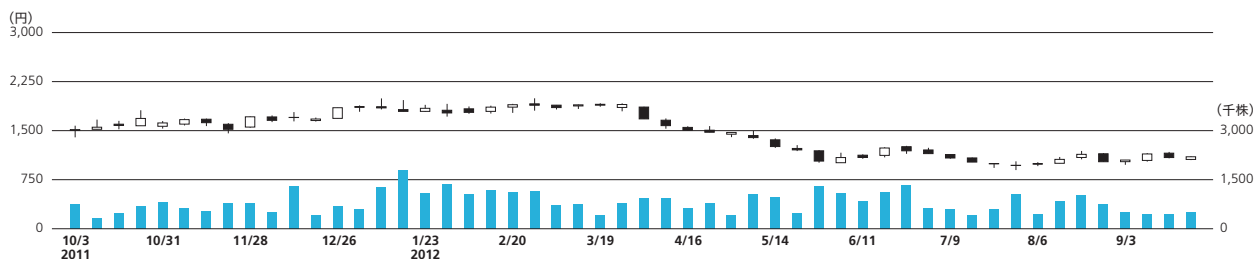
発行可能株式総数 …… 80,000,000株
 発行済株式の総数 …… 36,130,796株
 株主数 …… 10,577名

株式分布状況

(2012年9月30日現在)



株価(円)・出来高(千株)の推移(大証)



IRサイトのご紹介

ホームページでは株主様に役立つ様々な情報を発信しています。IRカレンダー、財務情報、決算資料、株価情報などをご覧ください。
<http://www.funai.jp/investors/index.html>



株主メモ

事業年度 4月1日から翌年3月31日まで
 定時株主総会 毎年6月に開催いたします。
 基準日 定時株主総会の議決権 3月31日
 期末配当 3月31日
 中間配当 9月30日

※その他必要がある場合は、あらかじめ公告する一定の日
 [なお、基準日は上記のとおりであります。配当金の支払いにつきましては、期末配当(年1回)の予定]

単元株式数 100株
 公告方法 電子公告により行います。
<http://www.funai.jp/investors/koukoku.html>
 ただし、電子公告によることができないやむを得ない事由が生じた場合は日本経済新聞に掲載いたします。

上場証券取引所 大阪証券取引所市場第一部
 東京証券取引所市場第一部

株主名簿管理人/特別口座の口座管理機関 三菱UFJ信託銀行株式会社
 郵便物送付先/各種お問合せ先 三菱UFJ信託銀行株式会社 大阪証券代行部
 〒541-8502 大阪市中央区伏見町三丁目6番3号
 電話 0120-094-777(通話料無料)
 (受付時間9:00～17:00(土、日、祝祭日、年末年始を除く))
 ホームページ <http://www.tr.mufj.jp/daikou/>

IRメール配信のお知らせ

当社では、株主・投資家の皆様にホームページにニュースリリースなどが掲載された際にお知らせするメール配信を行っております。ご希望の方は、メールアドレス(携帯電話のメールアドレスは不可)を当社ホームページ(<http://www.funai.jp/>)または、ディア・ネットサービスホームページ(<https://www.dirnet.jp/>)から、ご登録(無料)いただけます。